

福知山市立図書館

# としよかんだより

平成 27 年 4 月 発行

No.100

開館時間：10 時～18 時  
(中央館は火～金：20 時)  
休館日：毎週月曜日、年末  
年始、その他臨時  
休館(分館は国民の  
祝日・休日は休館)

中央館：TEL 22-3225 三和分館：TEL 58-4715 夜久野分館：TEL 37-1066 大江分館：TEL 56-1017  
FAX 22-7118 FAX 58-4716 FAX 37-1066 FAX 56-1017

## 進学・進級 おめでとうございます。

新しい1年の始まりです！これからたくさんの出会いや発見が待っていることでしょう。

4月23日から「こどもの読書週間」が始まります。本は読む人の感性やその時の気持ちで、いろいろな読み方ができます。まずはお気に入りの本に出会って、読書の楽しさを見つけてくださいね。

『としよかんだより』が今回で100号になります。みなさんのお役に立つような『としよかんだより』でありたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

第57回 こどもの読書週間  
4月23日～5月12日

「本は キラキラ 万華鏡」



## 春のおはなし会スペシャル

中央館	4月22日(水)	11:00～(幼児)
三和分館	4月25日(土)	10:30～(幼児～小学生)
夜久野分館	5月10日(日)	13:30～(幼児～小学生)
大江分館	4月18日(土)	10:30～(幼児～小学生)

※いずれも申込みはいりません。  
その他のおはなし会もたくさんあります。図書館のホームページや広報ふくちやま、館内のお知らせを見てください。



### としよかん ねが 図書館からのお願い

図書館ではおしゃべりしたり、走りまわったりしないでね。  
ルールを守って。静かに読書をたのしんでください。

## おすすめの本(児童)

『ケイゾウさんは四月がきれいです。』(市川 宣子/さく, 福音館書店)

ケイゾウさんは幼稚園で飼われているニワトリ。ウサギのみみこちゃんがやってきて子どもたちに可愛がられます。おもしろくないケイゾウさんは遠足、大雨と何かあるたびにいやになります。

『アゲハが消えた日』(齊藤 洋/作, 偕成社文庫)

小学生の正(ただし)は、このごろアゲハチョウを見るたびにおかしい気分になります。なにか大切なことを思い出そうとしているような、そんな気分です。ときおり現れるアゲハはなにを告げているのか？

『モンシロチョウの観察』(石井 象二郎/文, 偕成社)

日本中で見られるモンシロチョウが、キャベツに卵を産み付けるのはなぜだろう？どのようにキャベツを見分けるのだろうか？観察と実験をとおして、身近なモンシロチョウの不思議を解き明かします。

## おすすめの本(ティーンズ)

『枕草子』(清少納言/著・大庭 みな子/[訳] 著, 講談社)

「春はあけぼの…」の書き出しで知られる、平安時代宮中に仕えた女房のエッセイ。宮中でのセンスあふれる会話や歌のやりとり、自然や風物、人間模様などを、自由な感性で書き綴っています。

『タンポポな生き方』(猪口 孝/著, 西村書店)

どこにでも根を下ろし、深く根を張って冬の寒さにもじっと耐える。春には黄色い花を咲かせ、花が終わると綿毛となって飛んでいき、生命をつなぐ。そんなタンポポのたくましさになって、「自立した生き方」について国際学者の著者が語ります。

『春へつづく』(加藤 千恵/著, ポプラ社)

卒業式の朝だけ、願い事をかなえてくれる「あかすの教室」の扉がひらく…。不思議なジンクスが伝わる中学校を舞台に繰り広げられる、8人それぞれの八つの物語。

福知山市立図書館には、三つの分館があります。  
お気に入りの場所を見つけに、出かけてみてはいかがでしょうか。

## 三和分館

市役所三和支所から徒歩5分の「三和会館」の1階にあります。南向きの大きな窓から季節を感じることができ、ゆったりとくつろいでいただける空間になっています。

### あたたかい 春気分になれる本

『本のなかには』  
(ジョエル・ジョリヴェ／え, アノニマ・スタジオ)

「なかなか〇〇のなか だーれだ？」といったリズムが楽しい問いかけで広がる、カラフルでユーモラスな76ページの絵の世界。

親子でクイズをしたり、絵をじっくり鑑賞したり、子どもから大人まで様々な楽しみ方ができるアートブック。

『ぴっぽのたび』  
(刀根 里衣／著, NHK出版)

いつもひとりぼっちのかえるのぴっぽ。ある夜、夢の中を旅することができる羊と出会い、2人の夢の旅が始まります。四季の移ろう豊かな自然の中で小さな生きものたちの大きな夢に耳を傾けながら、ぴっぽは、大切なものを見つけ出します。

『はるじゃのばけつ』  
(白土 あつこ／作・絵, ひさかたチャイルド)

たっくんが桜の花びらをばけつに集めていると、たぬきがやってきて「そのばけつに、めだかを入れようよ」と。ところが「これははるじゃのばけつだから」といって、たっくんは花びらしか入れません。はるじゃのばけつって…?

優しい気持ちになれる春にぴったりのお話。

## 夜久野分館

JR下夜久野駅から歩いてすぐの「夜久野ふれあいプラザ」の中にあります。夜久野町は漫画家松本零士さんとのかかわりが深く、『銀河鉄道999』などの漫画本や「宇宙と星」コーナーなどがあります。

今年4月で開館10周年を迎え、楽しいイベントも開催中!

### 春、新たな出会い

『ちびドラゴンのおくりもの』  
(イリーナ・コルシュノフ／作, 国土社)

ぐずなハンノーは学校でからかわれてばかり。そんなある日、地の底の国からちびドラゴンがやってきた。

ちびドラゴンは、絵をかきたい、木にのぼりたいと、ハンノーの苦手なことばかりお願いしてきて…。

『ふしぎなともだち』  
(たじま ゆきひこ／作, くもん出版)

島の小学校に転校してきたぼく。始業式の日、体育館のろくぼくに登ってひとり言を言っている子がいてびっくりした。やっくんは自閉症というしょう害があって、おはなしするのが苦手なのだと言われて…。

『電車で行こう! 1~13』  
(豊田 巧／作, 集英社)

「トレイン・トラベル・チーム」のメンバー募集をきっかけに集まった、電車大好き小学生、雄太・大樹・未来の3人。旅行に出かけようと向かった駅で事件に遭遇した雄太たちは、数十本ある新幹線の中からたった1人の人間を見つけることに!?

## 大江分館

丹鉄大江駅近くの「大江町総合会館」1階にあります。酒呑童子伝説の大江山も近く、鬼の本、昔話・民話などの本を集めています。

### はじまりの春

『のはらうた1』  
(くどうなおことのはらみんな／作, 童話屋)

わらべうた、かぞえうた、というのはありますが、「のはらうた」ってどんなうた?のはらむらに住む、のはらみんながうたううた。かまきりやみのむしや風たちがうたいます。

かまきりりゅうじにすみれほのか、名付け親は作者のくどうさん。のはらみんなのうたをまとめた一冊です。

『よかったね、カモのおちびちゃん』  
(ナンシー・カーペンター／え, BL出版)

ニューヨークの公園に暮らす、お母さんがモと5羽の子ガモたち。ある日、子ガモたちはお母さんの後について道路を渡って行きます。ところが次々と排水口のすき間から落ちてしまってさあ大変!でも、消防士やボランティアの人たちに助けられ、無事に公園に戻れました。

本当にあつた心あたまのお話です。

『グリーン・グリーン』  
(あさの あつこ／著, 徳間書店)

桜の花の散る中、農林高校の新米教師として第一歩を踏み出した翠川真緑(みどりかわみどり)通称グリーングリーン。失恋のショックから救ってくれたのはでき立てのおにぎりでした。

農林高校で生徒や同僚教師と繰り広げる、驚きと感動の日々を描いた青春ドラマ。